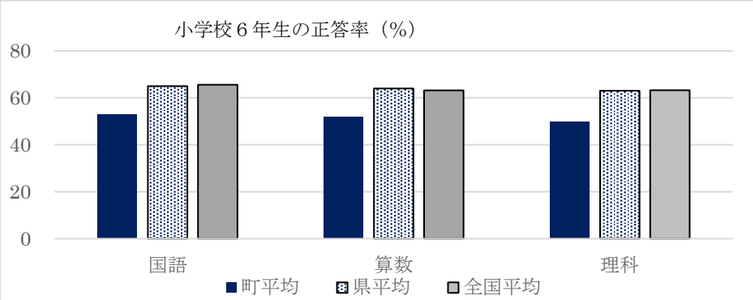
令和４年度　全国学力・学習状況調査（小学６年生、中学３年生）の結果と今後の展望

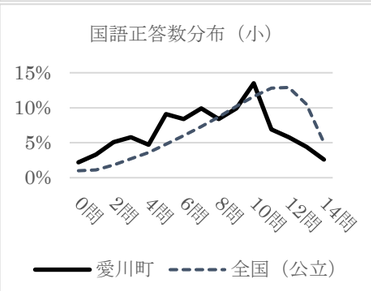
愛川町教育委員会

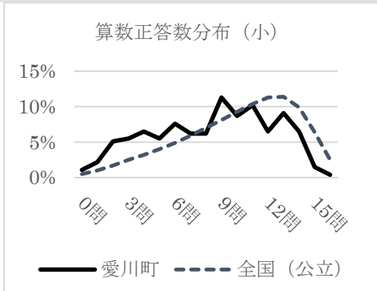
今年４月に実施された全国学力・学習状況調査について、文部科学省 国立教育政策研究所から報告書と調査結果資料が公表されました。愛川町の「教科に関する調査」と「質問紙調査」の結果から見えてくる町の小学校６年生と中学校３年生の課題とその改善策について、学校の先生方とともに分析した結果と今後の展望を報告します。

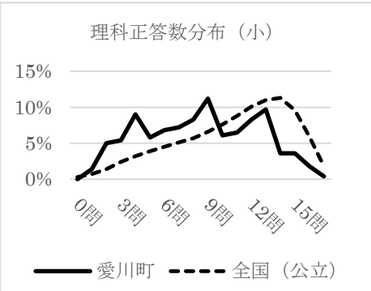
1　町内児童・生徒の教科に関する調査結果

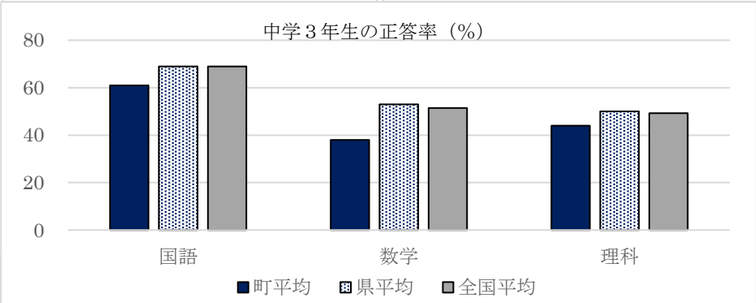


国語・算数・理科とも全国・県と比べて 10%以上下回っています。正答数の分布を見ると、国語では８問（全国・県 10 問）、算数では９問（全国・県 11 問）、理科では９問（全国・県 11 問）が中央値となっています。

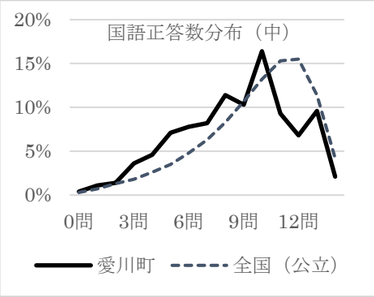


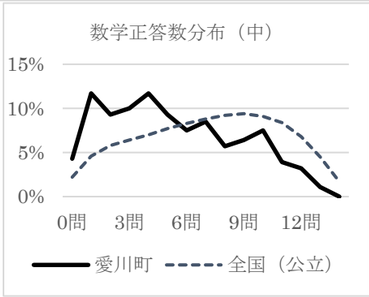


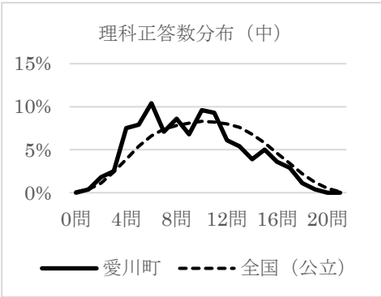




国語・理科が全国・県と比べてやや下回り、数学が 10%以上下回っています。正答数の分布を見ると、国語では９問（全国・県 10 問）、数学では５問（全国７問・県８問）、理科では９問（全国 10 問・県 11 問）が中央値となっています。







国語の「書くこと」領域では、中学３年生が県や全国の平均正答率に迫っていますが、小学６年生については、県や全国の平均を大きく下回っています。また、「話すこと・聞くこと」「読むこと」領域では、小学６年生、中学３年生ともに県や全国を下回っています。

中学３年生の数学では、「素因数分解をする」の問題の正答率が 35.6%（全国 52.2%）、「連立二元一次方程式を解く」の問題の正答率が 52.3%（全国 74.5%）など、「知識・技能」の基礎的事項の理解が不十分な状況です。中学３年生の理科では、「知識・技能」の問題の正答率が 42.9%で全国の正答率 46.1%に迫っています。

2　改善策　※各学校から挙げられた改善策の具体例

国　語

・自分の考えや思いなどを書く機会を増やし、お互いに見合うことで誤字脱字などに気をつけるように指導していく。
・ＩＣＴ機器の活用と実際に書く活動のバランスを考え、児童の理解に繋がる学習活動を設定。
・国語だけでなく、他教科でも、文章にまとめる機会を設け、抵抗感をなくす働きかけをする。
・筆順の確認、行書体と仮名のバランスを視覚的に捉えるため ICT 機器を取り入れる。

算数・数学

・スキルタイムを活用して、多くの課題に取り組む時間をつくり、計算等に慣れさせる。
・タブレットを活用しながら個々の理解度にあった課題に取り組ませ基礎基本の定着を図る。
・授業の中で、繰り返し学習する機会を設け、身につけた知識や技能を定着させる。
・自分で課題を見つけて考えるという学習への転換の必要があり、自分事として取り組める手立てを講じることで、知識・技能を活用する場面をつくり、「悩みながら自分で問題を解く」授業を実践する。

理　科

・他者と関わり合いながら、考察をする時間を確保する。
・身近な問いから始めて、理科の見方・考え方を働かせる学習活動を設定する。

3　町内児童・生徒の質問紙調査に関する結果

「普段（月～金曜日）、どれくらいの時間、テレビゲームをしますか」

	小６（全国）	中３（全国）
４時間以上	３１．３%（１７．２%）	２７．４%（１６．３%）
【昨年比】	**＋４．１%**	**＋２．２%**
３時間以上４時間未満	１９．４%（１３．５%）	１６．７%（１３．５%）
【昨年比】	**＋０．５%**	－５．４%

「学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれぐらいの時間勉強しますか」

	小６（全国）	中３（全国）
３０分未満	１７．６%（１０．５%）	１４．９%（８．５%）
【昨年比】	－０．１%	**＋２．３%**
全くしない	９．４%（　４．２%）	１１．７%（４．９%）
【昨年比】	**＋２．６%**	**＋５．７%.**

上記の調査結果より、愛川町の児童生徒は、依然としてテレビゲームに費やす時間が多く、学習時間が少ないことが分かります。家庭学習の習慣化、タブレット端末を利用したドリル学習の推進など、放課後の時間の活用に一層の見直しが必要と感じました。

4　今後の展望

愛川町では、一人一台のタブレット端末を配付し、授業での活用に取り組んでおり、持ち帰りも推奨しています。「ほぼ毎日」授業で使用していると回答した６年生の割合が３９．９%（全国２６．７%）と昨年度の２３%より大幅増となっています。

今後は、主体的・対話的で深い学びの実現のため、各校の授業改善及び ICT 機器を有効活用等、質の高い学びを実現することで、児童生徒一人ひとりの学習意欲の向上を目指します。